

表2 居住・所属エリアへの愛着感に関する諸項目間の相関関係
—すべての国のデータ—

		V4 問1愛着 a 今住んでい る地区	V5 問1愛着 b 今住んでい る市区町村	V6 問1愛着 c 今住んでい る都道府県・地 方・州	V7 問1愛着 d 自国	V8 問1愛着 e ヨーロッ パ・北アメリ カ・アジア	
V4 問1 愛着 でいる地区	a 今住ん	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	1.000 .000 29836	.582 .000 26653	.432 .000 28964	.274 .000 29231	.196 .000 27492
V5 問1 愛着 でいる市区町村	b 今住ん	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	.582 .000 26653	1.000 .000 27170	.585 .000 26594	.403 .000 26788	.291 .000 25308
V6 問1 愛着 でいる都道府県・地方・州	c 今住ん	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	.432 .000 28964	.585 .000 26594	1.000 .000 29444	.480 .000 29162	.359 .000 27506
V7 問1 愛着 でいる自国	d 自国	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	.274 .000 29231	.403 .000 26788	.480 .000 29162	1.000 .000 29786	.445 .000 27832
V8 問1 愛着 でいるヨーロッパ・北アメリカ・アジア	e ヨーロ ッパ・北アメリ カ・アジア	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	.196 .000 27492	.291 .000 25308	.359 .000 27506	.445 .000 27832	1.000 .000 27937

表3 居住・所属エリアへの愛着感に関する諸項目間の相関関係
—日本のデータ—

		V4 問1愛着 a 今住んでい る地区	V5 問1愛着 b 今住んでい る市区町村	V6 問1愛着 c 今住んでい る都道府県・地 方・州	V7 問1愛着 d 自国	V8 問1愛着 e ヨーロッ パ・北アメリ カ・アジア	
V4 問1 愛着 でいる地区	a 今住ん	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	1.000 .000 1235	.705 .000 1232	.529 .000 1219	.338 .000 1217	.249 .000 1065
V5 問1 愛着 でいる市区町村	b 今住ん	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	.705 .000 1232	1.000 .000 1248	.658 .000 1232	.378 .000 1229	.342 .000 1071
V6 問1 愛着 でいる都道府県・地方・州	c 今住ん	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	.529 .000 1219	.658 .000 1232	1.000 .000 1235	.475 .000 1219	.342 .000 1066
V7 問1 愛着 でいる自国	d 自国	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	.338 .000 1217	.378 .000 1229	.475 .000 1219	1.000 .000 1236	.359 .000 1074
V8 問1 愛着 でいるヨーロッパ・北アメリカ・アジア	e ヨーロ ッパ・北アメリ カ・アジア	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	.249 .000 1065	.342 .000 1071	.342 .000 1066	.359 .000 1074	1.000 .000 1075

に高いものであることがわかる。

②この「相関マトリックス」のより詳細な検討から、ここには一定のまとまった傾向といったものが見出される。それは、この「相関マトリックス」における主対角線上の相関係数はいうまでもなく1となっているが、行においても、列においても、ここから周辺に離れていくにつれて、相

関係数の値が小さくなっているということである。このような単純序列 (simple rank order) 体系で説明できる諸変数間の関係の構造を L. Guttman は「シンプレックス (simplex)」と呼んだ。そして、ここで重要なことは、Guttman のファセット理論 (Facet Theory) からすれば、このように諸変数間の関係が「シンプレックス」の性質